

分かる快感!

Z会ナビ

算数

理科

社会

お題

みんなテントウムシ



おうちで楽しく！
プログラミング通信講座、
Z会にて開講中！

Z会 KOOV

検索

①～④は、どれも筆者の自宅の庭で見つけたテントウムシです。これらの中から、ナナホシテントウを選びなさい。



春ですね。小さな花がさき、虫たちが動き始めるこの季節、なんだかワクワクしてきます。

春の早い時期から見かける昆虫に、テントウムシがいます。テントウムシといえば、赤いからだに黒い点々がある虫を思い浮かべますが、写真を見ると、なんだかいろいろな種類がありそうですね。今日は、身近なテントウムシを題材に、生き物の「種」について考えてみたいと思います。

さまざまなテントウムシたち

「ナナホシテントウ」は、その名の通り七つの星(点)を持つことが特徴です。写真のテントウムシを見ると、①は点が四つ、②と③は、一つ二つ……うーん……たくさん。④は、片側に三つと真ん中に一つ点が見え、反対側にも三つ点がありそうなので合わせて七つです。ということで、④がナナホシテントウです。(問題の答えは④)

ちなみに、①はモンクチビルテントウ、②はオオニジュウヤホシテントウ、③はナミテントウという種です。同じように赤っぽいからだに黒い点があるテントウムシですが、どれもちがう種なのです。

昆虫図鑑などで、テントウムシのページを見ると、他にもさまざまな模様のテントウムシがいることがわかります。日本には、なんと約180種ものテントウムシがいるようです。



⑤～⑧の写真も、筆者が自宅の庭で見つけたテントウムシです。赤い点や白い点、黄色いからだなどさまざまですね。⑤はヒメカメノコテントウ、⑥はムーアシロホシテントウ、⑦はキイロテントウ、⑧はナミテントウです。見た目もさまざまな、7種のテントウムシを紹介しました。



イラスト・瑞木匠

う、⑧はナミテントウです。見た目もさまざまな、7種のテントウムシを紹介しました。

あれ、8枚の写真があるのに、7種ですね。そう、③と⑧は同じナミテントウという種なのです。③のナミテントウは、②や④に似ているように思いますが、見た目の全然ちがう⑧と同じ種です。オスとメスのちがいというわけではありません。「種」ってなんだろう、とわからなくなってきましたね。

種とは…?

生き物の「種」ってなんでしょう？

多くの方は、同じような見た目の生き物をまとめたもの、というくらいのイメージを持っているのではないかと思います。もちろんそれもまちがいはいえません。見た目のちがいは、種を分ける重要な手がかりです。しかし、同種とされていても見た目が全然ちがう生き物や、別種とされているのに見た目がとても似ている生き物もいます。

種とはなにか、というのはとてもむずかしい問題で、研究者の間でも何十通りもの考え方があります。その中で、現在一番広く支持されている考え方を紹介しましょう。

「遺伝的な交流がないものは別種で、遺伝的な交流があるものが同種」という考え方です。遺伝的な交流とは、オスとメスが出会い、子孫を残していくことだと考えてください。①～⑧のテントウムシのうち、同じ種である③と⑧の組み合わせだけが、子孫を残していくことができるのです。

しかし、生き物は進化をします。今は別種となっているこれらのテントウムシも、はるか昔の

先祖にさかのぼると、同じ種だった時代があります。その同じ種だった生き物が、すみ場所が分かれたり、活動する季節や時間などがちがったりすることで、遺伝的な交流が減り、やがて全く遺伝的な交流がなくなって別種となります。少しずつ変化していくので、この日から別種！ときれいに分けられるものではなく、あいまいな時期があるのです。

そして、それは今この瞬間でも同じことで、同種なのか別種なのか、なんとも判断できない生き物はたくさん存在します。

でも、分けられないから全部まとめてテントウムシ!としていたのでは、生き物の研究は進んでいきません。厳密には分けられない中でも、なんとかそれらを分類して、それらのちがいについて考えていくことで、研究は進んでいきます。

種について少しでも興味がわいたら、身近に見つけられる生き物の名前を正確に調べてみましょう。図鑑にはのっていない種もたくさんあり、なかなか難しいですよ。(Z会・鳥越賢)

今回の教訓

見た目だけで判断してはいけません。



鳥越賢さん 2010年Z会入社。小学生向けの理科の教材編集を担当。生き物が大好きで、生き物の写真投稿サイト「日本まるごと生き物図鑑」を運営。